



「戦争と女性への暴力」
日本ネットワーク

fm-vaaww
26号
2000.10.31

ハーグに裁判官 6 人が勢ぞろいしました

VAWW-NET Japan 会員のみなさま

ハーグから先ほど帰国しました。さすがに 12 時間の空の旅は疲れましたが、成果を少しでも早くお伝えしたいので、くわしいことは VAWW-NET Japan ニュースに書きますが、とりあえず、簡単に報告します。

何よりも嬉しいのは「女性国際戦犯法廷」の裁判官 6 人が最終決定して、全員勢ぞろいしたことです。5 大陸から 6 人（男女 3 人ずつ）で、全員国際法と人権の世界的な専門家です。

とくに、旧ユーゴ国際戦犯法廷の前裁判長のガブリエル・マクドナルドさん（アフリカ系米国女性でお偉いさんという感じのしない素敵な女性）が裁判官になってくださったことは「法廷」が国際的に認知されたことを意味します。旧ユーゴ法廷ではじめて戦時性暴力が裁かれたわけで、その功績を 50 年以上前の「慰安婦」制度に適用していただけるのですから、これ以上の適任者はいないでしょう。裁判官 6 人全員が対等にということで、裁判長は決めないことにしたそうですが、実際には彼女がまとめ役で、判決をどう出すかなど、とても熱心に討論してこまかなことまで決まりました。

ほかの 5 人は、ロンドン大学の国際法教授クリスチーナ・チンキンさん（彼女の論文はマクドゥーガル報告にも引用されています）、アルゼンチンの判事で世界女性法律家連盟会長のカルメン・アルヒバイさん、そして、男性陣はインドの元最高裁長官で国連人権委員会副委員長のバグワティさん、タイ・チュラロンコン大学教授で子ども売買や子どもポルノ問題前国連特別報告者のピット・ムンタポーンさん、ケニアの人権委員会委員長でナイロビ大学教授のウィリー・ムトゥンガさんと

松井やより

いうすばらしいチームです。それぞれ、堅苦しい法律家というより個性的で魅力的な人々で、「女性国際戦犯法廷」の意味を高く評価して、歴史的な意義のある「法廷」にしたいという姿勢でした。

首席検事のパトリシア・セラーズさんとティナドルゴボルさんも参加され、「国際法関連文書に今後いつでも引用されるような充実した内容のある判決を書いてもらえるように起訴状をよりよいものにしたい」と、二人とも真剣でした。

また、法律顧問のロンダ・カプロンさんは国際刑事裁判所にジェンダー正義を求める女性コーカスのリーダーとして、超多忙な教授ですが、マニラ、台北、そしてハーグと毎回ニューヨークから参加されて、裁判官や検事に膨大な資料を用意したり、アドバイスをさかんにして、「法廷」への熱意を示していました。何よりも彼女の助言でマクドナルドさんが裁判官を引き受けてくださったのです。

韓国からは尹貞玉先生、検事の趙シヒョンさん、被害者証言を担当している若手社会学者の梁さんの 3 人、日本からは松井、東海林事務局長、そして、東澤靖弁護士が裁判官、検事たちとの法律論議を引き受けてくださり、本当に心強く思いました。

いよいよ、法廷まで 1 ヶ月余り、裁判官、検事たちの熱意を受けとめ、被害女性たちへの励ましになるすばらしい「法廷」をみんなの力で創りあげましょう。

毎回同じお願いで気が引けますが、募金、ボランティア、宣伝に一層力をいれていただきたいと思いますように、どうかよろしくお願いします。